

郡殿の池 花ごよみ

新潟県文化財保護指導員 大野 滋

1 はじめに

郡殿の池は、小千谷市の南西、吉谷地内の標高 230 m の山間にある、面積 70 a ほどの池である（図 3）。この池及びその周辺区域は、各種の湿原植生が分布するほか昆虫類の生息も豊富で、優れた自然環境が維持されており、この池を中心とした 4.8ha の区域は、新潟県自然環境保全地域に指定されている。

この池は、どんな日照りでも水面が一定していることから、信仰の対象となっており、かつては雨乞いのために遠方からも多くの人々が訪れていたとのことである。また、龍神伝説やおいよ伝説などの数々の神秘的ないつたえを古くから残している。

吉谷小学校からは 3km ほどの道のりであり、当校の児童は、毎年ここを訪れ、この池に関わる自然、歴史や文化などを学ぶ機会としている。

この池には大小 20 ほどの浮島がある（図 1）。郡殿の池保存会の方の話によると、強い風が吹いたあとは、1カ所に浮島が集まってしまうこともあったそうである。

実際に、保存会の方の指導の下で、接岸している浮島を竿で押してみると、子どもの力でも離岸することから、それぞれの浮島が浮いてただよっていることを確かめることができる（図 2）。

浮島や池の周りには湿性植物が、池の中には水生植物が、季節ごとに美しい姿を見せている。今回は、この紙面をお借りして、このような植物と池の姿を紹介したい。

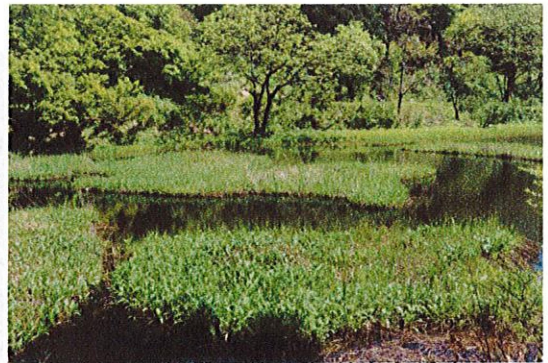


図 1 郡殿の池にただよう浮島



図 2 押すと離岸する浮島

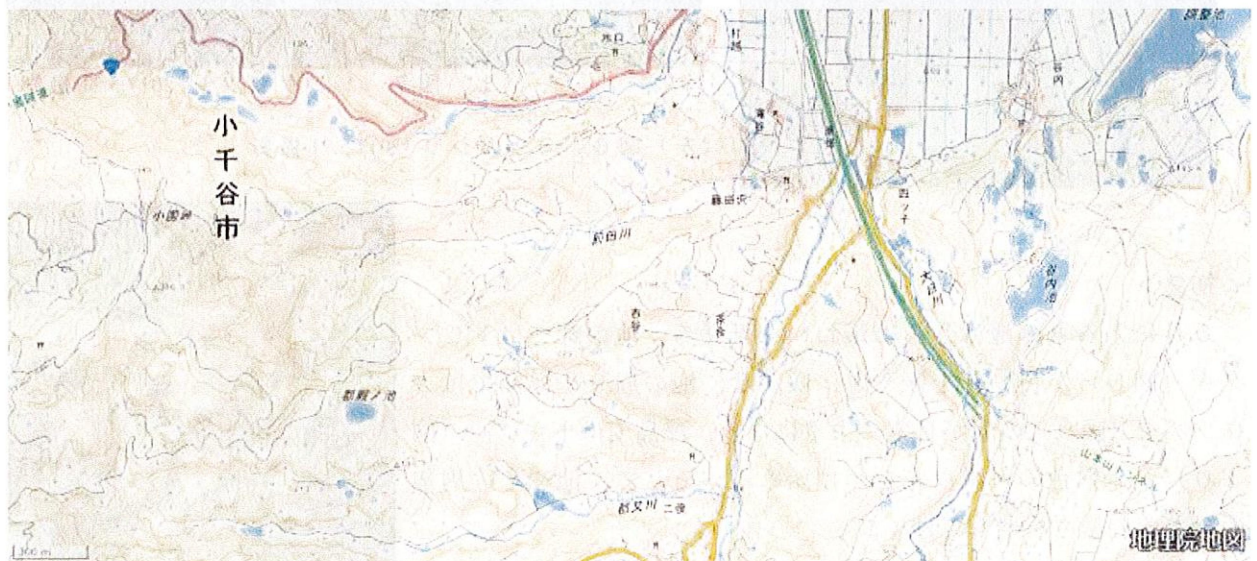


図 3 郡殿の池周辺地図（国土地理院）

2 花ごよみ

<早春>

池の周りでは、雪がとけるとすぐにショウジョウバカマ（図4）が咲き始める。そして、その周辺ではカタクリやスミレサイシン（図5）などが徐々にその姿を見せ始める。



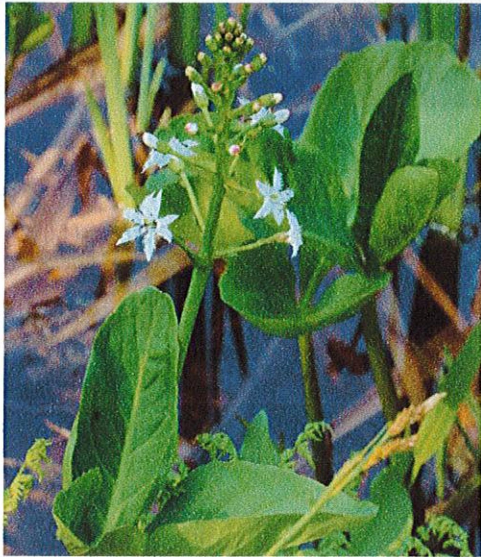
図4 ショウジョウバカマ 2017.4.22 撮影



図5 スミレサイシン 2017.4.30 撮影

<春>

5月の半ばを過ぎると、池やその周辺は賑わいを見せ始める。池の中では氷河期に栄えていたといわれているミツガシワ（図6）が白い花をつけ始める。池の畔ではレンゲツツジ（図7）の鮮やかな色が目立つようになる。



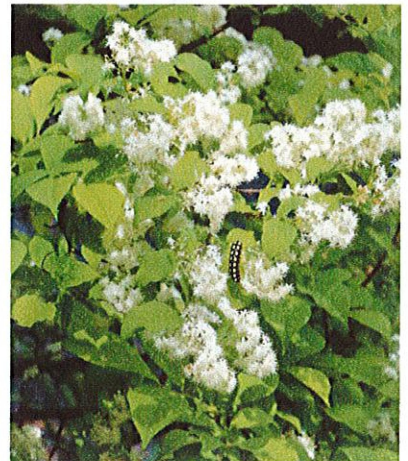
(上) 図7 レンゲツツジ 2017.5.21 撮影

(左) 図6 ミツガシワ 2017.5.21 撮影

<初夏>

6月に入ると、池はさらに賑わいを見せる。池の畔ではサワフタギ（図8）が白い花を賑やかに咲かせ、池の周りや浮島ではカキツバタ（図9）の紫が目立つようになり、浮島ではトキソウ（図10）が朱鷺色の可憐な花をつけ始める。そして、池やその周辺の緑がその濃さを増してゆく。

図8 サワフタギ 2017.6.4 撮影



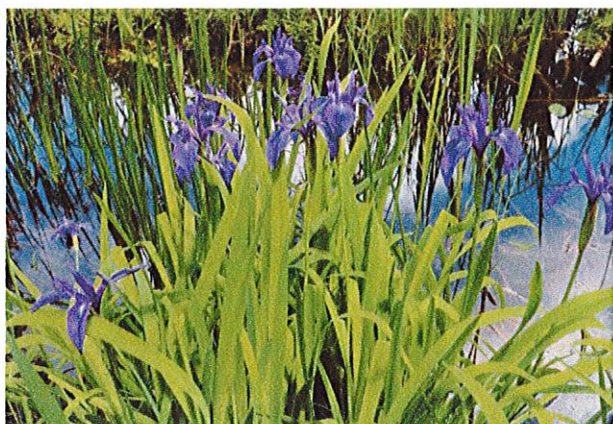
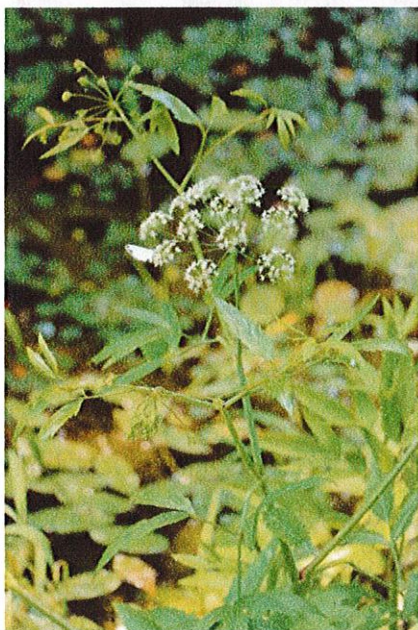


図 9 カキツバタ 2017.6.4 撮影

<夏>

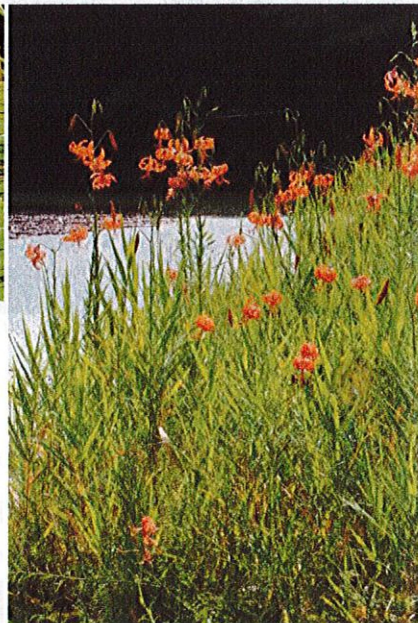
暑さが増し、池の周りがうっそうとしてくると、池の中ではドクゼリ（図 1 1）の白い花が見られるようになる。水面ではジュンサイ（図 1 2）が目立たぬ花をつけ、そのうちにヒシが白い花をつける。浮島はコオニユリ（図 1 3）のオレンジ色で埋め尽くされる。



(左) 図 1 1 ドクゼリ
2017.7.9 撮影

(中) 図 1 2 ジュンサイ
2017.8.5 撮影

(右) 図 1 3 コオニユリ
2017.8.5 撮影



<晩夏～初秋>

お盆を過ぎると、コオニユリの橙色からコバギボウシ（図 1 4、1 5）の紫色へとバトンタッチされる。浮島や池の周りは、その色で埋め尽くされる。

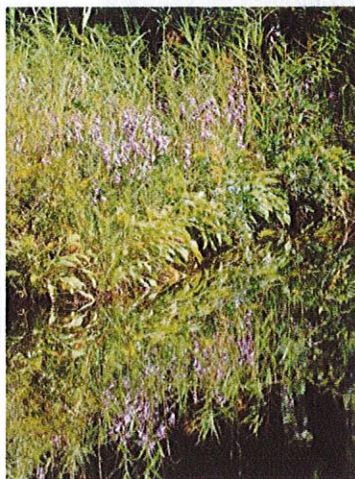


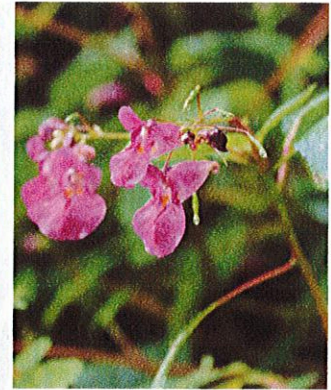
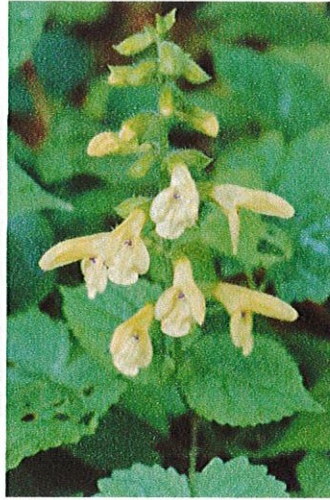
図 1 4 コバギボウシ
(浮島) 2017.8.27 撮影



図 1 5 コバギボウシ
(池の畔) 2017.9.3 撮影

<秋>

涼しくなると、浮島の緑は、草紅葉の色へと変わり始める。池の周りではキバナアキギリ（図16）やツリフネソウ（図17）などの黄色や赤が目立つようになる。



(左)図16 キバナアキギリ
2017.9.23 撮影

(上)図17 ツリフネソウ
2017.9.23 撮影

<晩秋>

秋も深まると、浮島は光が射すと黄金色に輝く（図18）ようになる。池の入り口のコマユミ（図19）の葉の紅色と裂開した果実の朱色が目立つ。



図18 黄金色に輝く浮島 2017.10.8 撮影



図19 コマユミ 2017.10.28 撮影

<初冬>

本格的な冬を前にして、浮島の植物は地上部を枯らして春への備えをする。池の畔にたたずむ辨財天も冬への備えをしている（図20）。浮島も雪をまとい始めた（図21）。この後、浮島や池の周りの植物たちは、雪の布団に守られながら雪どけを待つことになる。



図20 冬枯れの浮島と辨財天 2017.11.3 撮影

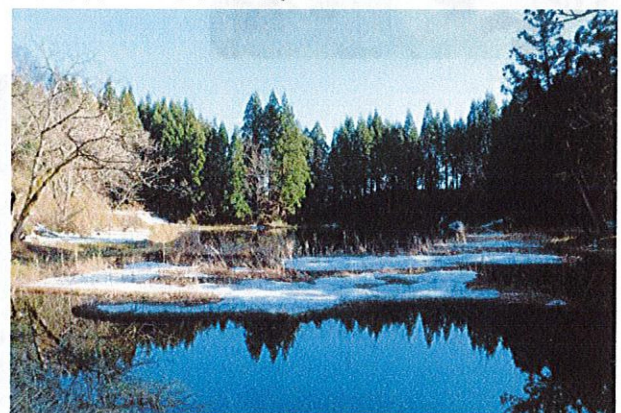


図21 雪をまとい始めた浮島 2017.11.28 撮影

<参考文献> 小千谷市教育委員会(1976)郡殿の池のおいたちをさぐる 小千谷の自然 pp.39～42
小千谷市教育委員会(1985)小千谷その生いたちと四季 p.58, 59